

P-1

Thetic vs. Categoricalの対立におけるEvent-reporting 文の位置付け：
日本語諸方言における主題助詞・主格助詞の出現と韻律句形成から

廣澤尚之

要旨

本発表の目的は、Event-reporting (Lambrecht 1994: 143)と呼ばれる文の位置付けを再検討することである。情報構造理論では、談話に要素を導入する文であるTheticと、導入された要素に情報を付与する文であるCategoricalが区別される (Kuroda1972, Lambrecht1994: 144, 185)。談話に出来事を導入するEvent-reportingは、従来Theticの一種であるとみなされてきた (Lambrecht1994:144)。本発表では、標準語を含む4つの日本語諸方言におけるEvent-reportingの形態的・韻律的振る舞いを記述することで、Event-reportingがTheticの下位分類であるとする説に疑義を呈する。本発表は、Event-reportingをTheticやCategoricalと並ぶ第三の文類型として扱うべきであることを主張する。Event-reportingは、Theticと同様、指示対象を談話に導入する一方で、Categoricalと同様、導入された要素に情報を付与する機能も持ち、このハイブリッドな特徴が、個別言語におけるEvent-reportingの形式的特徴に表れる。

1. はじめに

本発表の目的は、フィールドワークで得られた実証データをもとに、情報構造理論における文類型の再検討を行うことである。特に、Lambrecht (1994: 143)の文類型 (表1) においてTheticの下位類型として扱われていたEvent-reportingと呼ばれる情報構造タイプを、TheticやCategoricalと並ぶ第三の独立したタイプとして扱うべきであることを主張する (表2)。

表1 Lambrecht(1994)の文類型

Thetic		Categorical
Presentational	Event-reporting	
談話に要素を導入		情報を付与

表2 本発表で主張する文類型

Thetic (Presentational)	Event-reporting	Categorical
談話に要素を導入		
	情報を付与	

Lambrecht (1994: 144, 185)によれば、Theticは談話に要素を導入する文であり、Categoricalは導入された要素に情報を付与する文である。TheticとCategoricalの違いはさまざまな言語における形式的相違に反映される (Sasse1987, Croft 2022)。以下のペアに見るように、日本語標準語においてはTheticで主語が主格助詞の「が」を、Categoricalで主語が主題助詞の「は」を取る (Kuroda1972)。

- (1) 「太郎」を見つけて) おや、太郎がいる。 **Thetic**
- (2) (1の文に続けて) 太郎は泣いてるよ。 **Categorical**

一方、本発表で問題とするEvent-reportingは、(3)のように何らかの出来事を談話に導入する文とされる (Lambrecht 1994: 144)。

- (3) 「太郎」を見つけて) おや、太郎が泣いてるよ。 **Event-reporting**

談話にある要素を導入する、という点において、確かに指示対象を導入する(1)と「出来事」を導入するとされる(3)は類似するように見える。この考え方にに基づき、Event-reportingは従来Theticの一種であるとみなされてきた(Lambrecht1994:144)。

本発表では、標準語を含む4方言(標準語、宮崎県椎葉村尾前方言、熊本県天草市牛深方言、鹿児島県いちき串木野市方言)のデータに基づき、Event-reportingに関する文類型を再検討する。その際、主題・主格標示と韻律句形成という2つの観点に着目する。後述するように、これら2つの観点から、Event-reportingを従来の表1のように位置付けるのではなく、表2のように位置付けることが適切であることを示すのが本研究の論旨である。

主題・主格標示に関して、詳細は後述するが、ここで宮崎県椎葉村尾前方言の例を挙げる。尾前方言では、標準語と同様、Theticでは主語が主格助詞(=no)を取り、Categoricalでは主語が主題助詞(=wa)を取る。一方、Event-reportingでは主格助詞(=no)と主題助詞(=wa)の両方を取ることができる。

- (4) ara haijaa {=no/=wa} kitaga. 「あ、タクシーが来た。」 **Thetic**
 (5) haijaa {*=no/=wa} moo kitaga. 「(タクシーの話をしていて) タクシーはもう来たよ。」
Categorical
 (6) ara singooki {=no/=wa} taoreturuhuu. 「あ、信号が倒れてる。」 **Event-reporting**

(4-6)より、尾前方言のEvent-reportingは主語の取る助詞という観点でThetic的な振る舞いとCategorical的な振る舞いの両方を見せると言える。この事実は、従来のようにEvent-reportingをTheticの下位類型とみなす類型(表1)では不自然である一方、本発表のようにEvent-reportingを第三の類型とし、しかもTheticとCategoricalの両方の機能を持つ文であるとみなす類型(表2)からは自然な振る舞いである。

韻律句形成を見ると、Event-reportingはむしろCategoricalと同一パターンを示す。これは今回扱う全ての方言に言えるが、以下では標準語を例に挙げる。本発表では、句音調によるピッチの立ち上げによって区分される単位を韻律句と呼ぶ。ここで、(1-3)を再掲する。筆者の内省によればTheticでは文全体が1つの韻律句を形成し、Event-reportingとCategoricalでは主語と述語が別々の韻律句を形成する¹。

- (1) 「太郎」を見つけて) おや、[太郎がいる]。 **Thetic**
 (2) (1の文に続けて) [太郎は][泣いてるよ]。 **Categorical**
 (3) 「太郎」を見つけて) おや、[太郎が][泣いてるよ]。 **Event-reporting**

韻律句形成におけるこの事実は、従来のようにEvent-reportingをTheticの下位類型とみなす類型(表1)では説明が難しい。一方、この事実だけを元にEvent-reportingをCategoricalの下位類型とするのも問題がある。先に見た助詞の取り方における方言間変異が説明できないからである。本発表のようにEvent-reportingを第三の類型とし、TheticとCategoricalの両方の機能を持つ文であるとみなす類型(表2)が最も

¹ Nakagawa (2020)は、Thetic vs. Categorical が文焦点文 vs. 述語焦点文におおよそ一致する (p.31) とした上で、韻律的に主語と述語は、文焦点文では一体となり、述語焦点文では分かれる傾向があることを実験的手法によって示している (p.247)。ただし、Event-reporting ではどうなるのかは確かめられなかった。

穏当である。すなわち、Event-reportingにはTheticのような「要素の導入」という機能と、Categoricalのような「（導入済み要素に対する）情報の付与」という機能の二段階性があり、韻律句形成にはこの二段階性が反映されていると見ることができる。

2. 先行研究とその問題点

Lambrecht (1994: 144)はEvent-reportingをTheticの下位類型と見なしている。Theticの下位類型にはもう1つあり、それはPresentationalと呼ばれる。Presentationalはある指示対象の存在を伝えることで、聞き手にその指示対象に対して関心を向けさせる文である(Lambrecht1994: 39)。以下の(7)と(8)は、Lambrecht (1994)自身が挙げているPresentational, Event-reportingの例（原文は音素表記）である。

(7) ジョンが来た。 **Presentational** (Lambrecht 1994: 143 ('4.18-d))

(8) 電話が鳴っているよ！ **Event-reporting** (Lambrecht 1994: 144 ('4.19-d))

Lambrecht (1994: 144) によれば、PresentationalとEvent-reportingは、どちらも談話に「要素」を導入する機能がある。Presentationalが導入する要素は指示対象(=ジョン)であり、Event-reportingが導入する要素は出来事(=電話が鳴っていること)であるとされる。このように、要素の導入に指示対象と出来事の2つを区別する研究は他にもあり、Sasse (1987)はそれぞれEntity-central, Event-centralと呼ぶ。

しかし、「出来事の導入」という考え方には問題もある。(8)のEvent-reportingは「電話が」の部分において「電話」という指示対象が談話に導入されているとも言え、さらにその同一の文において、指示対象である「電話」が現在「鳴っている」という状況にあるという情報が付与されているとも言える。すなわち、(8)は一方で(Theticのうち)Presentationalの機能を持ち、他方でCategoricalの機能を持つ、言い換えれば2つを足し合わせたような文であるとみることも十分に可能である。これを(9)に示す。

(9) 電話がある+ (それは) 鳴っている = 電話が鳴っているよ！

Presentational + Categorical = Event-reporting

Event-reportingをこのようなハイブリッドな構造であると考え実証的な根拠を、次節では方言データの検討を通して示していく。

3. 日本語諸方言におけるEvent-reporting

3.1. 調査の概要

本節は、標準語を含む4方言（標準語、宮崎県椎葉村尾前方言、熊本県天草市牛深方言、鹿児島県いちき串木野市方言）におけるEvent-reportingの振る舞いを記述する。調査項目は主語の標示（主題助詞をとるか主格助詞をとるか）と韻律句形成（文全体で1つになるか、主語と述語で2つに分かれるか）である。

標準語については発表者の内省を用いた。方言データの収集にあたっては、筆者の専門である九州方言を対象とした。肥筑・豊日・薩隅の各方言区画（九州方言学会1969）から1つずつ（熊本県天草市牛深方言、尾前方言、鹿児島県いちき串木野市方言）、筆者自身のフィールドワークによって調査した。調査法は対面（一部電話）のエリシテーションである。イラスト・口頭説明による文脈を提示した上で、

ターゲット例文を翻訳してもらって訳出型調査を行った²。調査票を表3に示す。

韻律句の記述にあたっては、話者の発話した方言文例におけるF0曲線を、音声分析ソフトpraat(ver.6.1.42)によって解析した。本発表ではすでに述べた通り句音調によるピッチの立ち上げによって区分される単位を韻律句と扱っている。

表3 調査票

(10)	親子で山道を歩いている。道の向こうからタクシーが来るのを見つけた母親が、子どもに言う。	
	タクシー{主題助詞/主格助詞/無助詞}来たよ。	Thetic
(11)	初めて通る山道を進んでいると、目の前に倒れた信号機が見える。助手席の人が運転している人に言う。	
	信号機{主題助詞/主格助詞/無助詞}倒れてるよ。	Event-reporting
(12)	夫婦で外出をする。予約したタクシーがやってきた。夫から「タクシーはもう来た？」と聞かれた妻が答える。	
	タクシー{主題助詞/主格助詞/無助詞}もう来たよ。	Categorical

調査結果の一覧は以下の表4の通りである。NOMは主格助詞，TOPは主題助詞，Øは無助詞を表す。韻律は、文全体が1つの韻律句で実現した場合を「1つ」、主語と述語で別々の韻律句となった場合を「2つ」と表記している。

表4 調査結果概要

	標準語			尾前方言			串木野方言			牛深方言		
	P	E	C	P	E	C	P	E	C	P	E	C
助詞	NOM/Ø	NOM/Ø	TOP/Ø	NOM	NOM/TOP	TOP	NOM	NOM	TOP	N	N(Ø)	N(noのみ)/T/Ø
韻律	1つ	2つ	2つ	1つ/2つ	2つ	2つ	1つ	2つ	2つ	1つ	2つ	2つ

3.2. 標準語

表5は標準語の調査結果である。このデータは発表者の内省による。主語の取る助詞の観点において、標準語はどの場合でも無助詞を許すことが特徴的である。標準語のEvent-reportingは主語の取る助詞の観点からはThetic的（ガを取る）だが、韻律句形成からはCategorical的（2つになる）である。

表5 標準語結果

(13)	親子で山道を歩いている。道の向こうからタクシーが来るのを見つけた母親が、子どもに言う。		
	タクシー {*/ハ/ガ/Ø} 来たよ。	主語の助詞：主格助詞・無助詞	韻律句：1つ
(14)	初めて通る山道を進んでいると、目の前に倒れた信号機が見える。助手席の人が運転している人に言う。		
	信号機 {*/ハ/ガ/Ø} 倒れてるよ。	主語の助詞：主格助詞・無助詞	韻律句：2つ
(15)	夫婦で外出をする。予約したタクシーがやってきた。夫から「タクシーはもう来た？」と聞かれた妻が答える。		
	タクシー {ハ/*ガ/Ø} もう来たよ。	主語の助詞 ：主題助詞・無助詞	韻律句：2つ

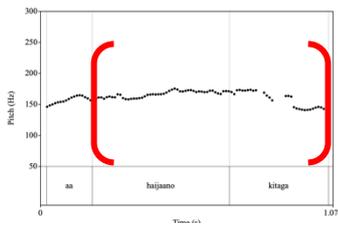
² 標準語の影響を極力避けるため、ターゲット例文の主語は助詞なしで提示した。方言訳を得たうえで、主語に第一回答とは違う助詞が出られないか確認した。今回調査した方言では、いずれも主題助詞は標準語の「は」と同根と考えられる=waであり、主格助詞は =gaと=noの2形式である。ただし、尾前方言では今回=gaは出現しなかった。これは、今回の調査票は無生物主語で統一したためである。この方言では有生性の低い名詞には=gaがつきにくい（下地2016）。串木野方言では逆に=noが出現しなかった。この方言では=noは自然談話においても出現頻度が低いという（黒木邦彦氏 p.c.）。

3.3. 尾前方言

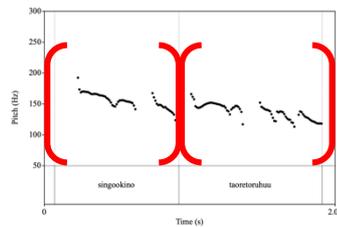
表6は宮崎県椎葉村尾前方言の調査結果である。尾前方言は主語が無助詞になりにくい（下地 2016）。韻律句形成においてはTheticにおいても2つに分かれる例がみられた。尾前方言のEvent-reportingは主語の取る助詞からはThetic的（noを取る）でもありCategorical的（waを取る）でもある。韻律句形成からは、少なくともCategoricalと同じ振る舞いをしている（2つになる）といえる。

表6 尾前方言結果

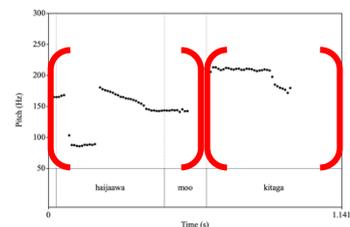
(16)	親子で山道を歩いている。道の向こうからタクシーが来るのを見つけた母親が、子どもに言う。		
	haijaa{*wa/no} kitaga.	主語の助詞：主格助詞	韻律句：1つ/2つ
(17)	初めて通る山道を進んでいると、目の前に倒れた信号機が見える。助手席の人が運転している人に言う。		
	singooki{wa/no} taoreturuhuu.	主語の助詞：主格助詞・主題助詞	韻律句：2つ
(18)	夫婦で外出をする。予約したタクシーがやってきた。夫から「タクシーはもう来た？」と聞かれた妻が答える。		
	haijaa{wa/*no} moo kitaga.	主語の助詞：主題助詞	韻律句：2つ



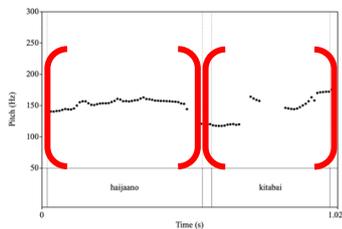
(16) のピッチ曲線①



(17) のピッチ曲線



(18) のピッチ曲



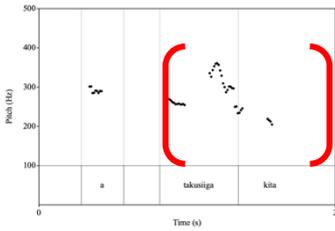
(16) のピッチ曲線②

3.4. 串木野方言

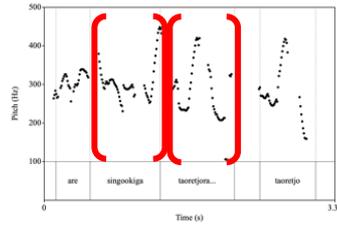
表7は鹿児島県いちき串木野市方言の調査結果である。串木野方言でも無助詞は許されにくく、無助詞を使うと（話者の内省によれば）標準語のように聞こえるとのことである。串木野方言のEvent-reportingは主語の取る助詞からはThetic的（gaを取る）だが、韻律句形成からはCategorical的（2つになる）である。

表 7 串木野方言結果

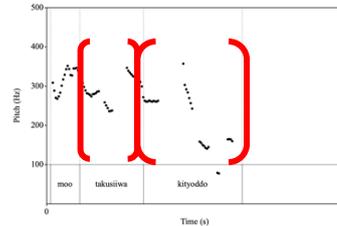
(19)	親子で山道を歩いている。道の向こうからタクシーが来るのを見つけた母親が、子どもに言う。		
	a takusii{*wa/ga} kita.	主語の助詞：主格助詞	韻律句：1つ
(20)	初めて通る山道を進んでいると、目の前に倒れた信号機が見える。助手席の人が運転している人に言う。		
	singooki{*wa/ga} taoretjo.	主語の助詞：主格助詞	韻律句：2つ
(21)	夫婦で外出をする。予約したタクシーがやってきた。夫から「タクシーはもう来た？」と聞かれた妻が答える。		
	moo takusii{wa/*ga} kitjoddo.	主語の助詞：主題助詞	韻律句：2つ



(19) のピッチ曲線



(20) のピッチ曲線



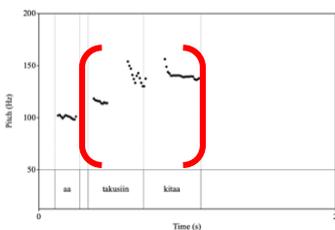
(21) のピッチ曲線

3.5. 牛深方言

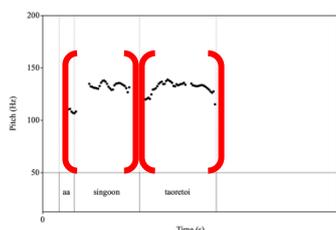
表8は熊本県天草市牛深方言の調査結果である。牛深方言では無助詞が重要なポイントとなる。すなわち、無助詞はTheticでは許されず、Categoricalでは許される。無助詞についてEvent-reportingでは明確な内省が得られなかったため「？」としている³。今回調査した方言では唯一Categoricalが主格助詞のnoを取っている。ただし、同じく主格助詞であるgaは取らない。牛深方言のEvent-reportingは、主語の取る助詞からはThetic的(waを取らない)で、韻律句形成からはCategorical的(2つになる)といえる。

表 8 牛深方言結果

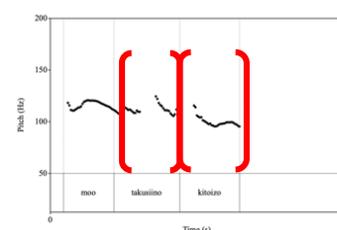
(22)	親子で山道を歩いている。道の向こうからタクシーが来るのを見つけた母親が、子どもに言う。		
	aa takusii{*wa/no/ga/*Ø} kita.	主語の助詞：主格助詞	韻律句：1つ
(23)	初めて通る山道を進んでいると、目の前に倒れた信号機が見える。助手席の人が運転している人に言う。		
	aa singoo{*wa/no/ga/?Ø} taorettoi.	主語の助詞：主格助詞・(無助詞)	韻律句：2つ
(24)	夫婦で外出をする。予約したタクシーがやってきた。夫から「タクシーはもう来た？」と聞かれた妻が答える。		
	moo takusii{wa/no/*ga/Ø} kitoizo.	主語の助詞：主格助詞 (noのみ)・ 主題助詞・無助詞	韻律句：2つ



(22) のピッチ曲線



(23) のピッチ曲線



(24) のピッチ曲線

³ 話者の回答は「Øよりは=noの方が良い」であり、Ø自体の容認度は再調査する必要がある。

4. おわりに

本発表では、従来Thetic vs. Categoricalの2類型においてTheticの一種とされてきたEvent-reportingに着目し、この情報構造における日本語の4方言の主語の助詞の取り方と韻律句形成を考察した。その結果、いずれの方言においても、Event-reportingはThetic的な振る舞いだけでなくCategorical的な振る舞いも見せていることが明らかになった。よって、従来の表1のような類型とは相いれず、本発表で主張する表2のような類型で整理することが適当である。

情報構造理論におけるThetic vs. Categoricalの区別に似た日本語学の概念として、現象文 vs. 判断文がある(三尾1948)。本発表での議論はそのまま現象文 vs. 判断文の類型にも当てはまるものであり、「現象文」を「存現文」(下地2019)と「出来事文」等に再編するべきであると考えられる。

本発表の今後の課題について3点述べる。まず、韻律句の調査において、否定証拠を取ることができなかった。今後は音声合成を用いた実験的手法を用いることで否定証拠を取りたいと考える。次に、本発表ではTheticとEvent-reportingを、いずれも談話に初出の指示対象について述べる文に限った。初出ではない指示対象を談話に導入するTheticやEvent-reportingは、指示対象が初出のものとは異なる振る舞いをみせることもある(廣澤2023, 廣澤・松岡・下地forthcoming)。導入される指示対象に関する、このような情報状態に関わる条件の精査も今後の課題である。最後に、Event-reportingをハイブリッドのように位置付ける本発表の考え方からは、今回扱った日本語諸方言における主語の標示と韻律句形成のように、ある1つの言語体系のEvent-reportingの文を考察した時にTheticのように振る舞う現象もありえ、またCategoricalのように振る舞う現象もありうる、ということ予測する。さらに、言語によって、ある言語のEvent-reportingの文はThetic的に振る舞い、別の言語の場合にはCategorical的に振る舞う、という状況も予測しうる。通言語的な実証研究についても今後の課題としたい。

【参考文献】

- Croft, William (2022) *Morphosyntax*. Cambridge: Cambridge University Press.
- 廣澤尚之 (2023) 「宮崎県椎葉村尾前方言における情報構造」修士論文, 九州大学.
- 廣澤尚之・松岡葵・下地理則 (forthcoming) 「方言変異からみる「ハもガも使えない文」—宮崎県椎葉村尾前方言, 鹿児島串木野方言, 標準語の対照を通して」竹内史郎・下地理則・小西いずみ(編)『日琉諸語における情報構造と文法現象』東京: ひつじ書房.
- 九州方言学会 (1969) 『九州方言の基礎的研究』東京: 風間書房.
- Kuroda, Shige-Yuki (1972) The categorical and the thetic judgement evidence from Japanese syntax. *Foundations of Language* 9 (2): 53-185.
- Lambrecht, Knud (1994) *Information Structure and Sentence Form: Topic, Focus, and the Mental Representations of Discourse Referents*. Cambridge: Cambridge University Press.
- 三尾砂 (1948) 『国語法文章論』東京: 三省堂.
- Nakagawa, Natsuko (2020) *Information structure in spoken Japanese: Particles, word order, and intonation*. Berlin: Language Science Press.
- Sasse, Hans-Jürgen (1987) The thetic/categorical distinction revisited. *Linguistics* 25: 511–580.
- 下地理則 (2016) 「3. 格体系記述の中間報告」下地理則・小川晋史・新永悠人・平塚雄亮・坂井美日(編)『尾前調査班 中間報告書—宮崎県椎葉村尾前方言簡易語彙集と文法概説—』34-52. 東京: 国立国語研究所.
- 下地理則 (2019) 「現代日本語共通語(口語)における主語の格標示と分裂自動詞性」竹内史郎・下地理則(編)『日本語の格標示と分裂自動詞性』1-36. 東京: くろしお出版.